

各委員から事前にいただいたご意見等について

※課題と感じられていることや、各団体での独自の取組の紹介などを寄せていただきました。

委員名	ご意見等
有馬委員	<p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」</u></p> <p>『子育て世代包括支援センター』 地域ごとに、関係機関と情報を共有し、連携して（結婚）妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を確保する機能を持つ「仕組み」としてのセンター化が推進される事が大切なのではと思う。この「仕組み」の中には、各地域における専門スタッフ（保健師・看護師・相談支援員・保育士・臨床心理士・助産師・教師・コーディネーター・医師など）が属し、各々がリンクし協働することで、一人の子供の健やかな発達を目指し、ハイリスク支援が可能になると期待する。</p>
糸永委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『安心の預かり施設充実』</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></p> <p>『育児の充実が優先対策』 それができれば結婚～出産までのプロセスに対策が可能ではないか。</p>
内田委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『子育てを応援する職場・地域づくり』 子どもの病気、園や学校の行事等で子どもに関わらなければならない時に、即座に気安く休暇を認めてもらえる、わかり合える職場づくりが全職場に必要と思います。（まずは管理職から研修することが大切） 地域も地域ぐるみで理解し合い、声かけあえる意識改革が必要と思います。（核家族、共働きの私の子育てから）</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></p> <p>3世代同居・近隣居住をすすめる考えを広める。</p>

委員名	ご意見等
賀来委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『安心して子供を預ける環境』 大分市では、認可保育所の入所待ちの方が4月現在では約800名おられるそうです。先日の大分合同新聞では、出生率増え幅全国一との記事がありましたが、人口維持の目安になる出生率の2.07には届かない1.65の状況です。子育て支援は大分の将来をつくっていくためのものなので、予算も厚めにしてもらいたいです。大分県全体では、子どもの急な病気の際の病児保育が、事前の予約が必要だったり、定員が決まっていたりと利用しづらい状況です。子育てしながらでも働きやすい環境をつくるために、解決していけたらと思います。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></p> <p>『・出会いの場→結婚の推進 ・子どもの医療費の軽減または補助』 ・大分県の平均結婚年齢は、男性30.5歳、女性29.1歳と晩婚化が進み、それによって少子化の傾向も強くなります。ライフスタイルが多様化している社会の中、結婚の素晴らしさとともに、働きながら子育てできる環境づくり（行政事業）が大切だと考えます。 ・別府市では、子どもが小学校になると、それまで無料だった医療費がかかるようになります。今まで定期的に連れて行っていた歯医者などの受診が、経済的に難しくなっている現状です。（特に子どもの多い家庭では）子どもの健康な体づくりのために、医療費の補助を強く望みます。</p>
衣笠委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『子育ての社会化』 私は、社会福祉やソーシャルワーカーを専門とする立場から、子育てと仕事の両立に悩む親御さんの姿を沢山見てきました。特に、子どもさんが障がいなどを持っている場合、その負担が「お母さん」に偏る傾向があり、結果として過大な負担から、家族がバーンアウトしてしまう例も散見されます。 そうした事態を防ぐためには、まず「子育ての社会化」を進める必要があると考えます。父親の育児参加は勿論ですが、地域の中で、社会の中で子どもを育てるという意識が必要になると考えます。 大分市内では、そうした意識に基づいて、子育てサークルや地域の子育てサロンなどの取り組みも立ち上がってきています。ただ親、特に母親だけに育児を押し</p>

委員名	ご意見等
	<p>しつけることなく「地域社会全体で」子育てに取り組むような仕組み作りが急務であると考えます。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></p> <p>『置き去りにしない関わりのあり方』</p> <p>一昨年度、大分県全県において「生活課題実態調査」という生活ニーズ調査をさせていただいた際に明らかになったのは、「地域の中で置き去りにされているクラスター」として、「独居高齢者」とともに、「子育て中の母親」という集団が挙げられました。これにはショックを受けました。</p> <p>具体的には、結婚して他県から大分に移り住み、夫が働く中で自らは出産と育児に忙殺され、結果として社会的なつながりを失い、地域の中で孤立してしまうお母さん方が少なくないということです。こうした「孤立・孤独」の問題は、生活困窮者や高齢者だけではなく、子育て中の世帯にもいえる事であることがハッキリしました。</p> <p>こうした「孤立・孤独」の事態を防ぐには保健師さんや専門職の皆さんの関わりも勿論必要ですが、先にも述べた「地域社会の中でのネットワークが必要となってくるように思います。安心して暮らせる地域づくりは、安心して結婚し、子育てをし、仕事ができる環境に繋がります。切れ目のない支援の推進に向けて、地域社会のネットワークのあり方に、今一度関心を向けていただければと思います。</p>
古谷委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『ワークライフバランス』</p> <p>毎週の定時退庁日を各学校ごとに曜日を決めていることと市全教職員が、一斉定時退庁日を第3水曜日に設定している。このことで、他の日についても計画的な職務の遂行へと意識改革が進みつつある。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」</u></p> <p>『負担軽減にチームで取り組む』</p> <p>管理職を中心に、安心して出産・育児に臨めるように、職務上の負担軽減に取り組んでいる。</p> <p>また、休憩室の環境整備についても定期的に協議している。</p>

委員名	ご意見等
佐藤委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『職場の理解と協力、地域との関わり』 子育てに関して職場や母親の大変さに真剣にかかわろうとしない状況をリセットして、子どもを育てていく事に福祉もかかわっていく状況が出来るといいと思います。</p> <p>地域の方々とのかかわりでは、核家族が多いので協力してもらえる関係性が出来るといいと思います。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></p> <p>『妻を支え守る 父親の役割』 共働きと核家族が増えている中、母親の理解者は側にいる父親だと思います。仕事・家事・育児に追われている母親を支えるために父親も積極的に手伝い、少しでもストレスが減るといいと思います。また、父親にとっても貴重な体験になると思います。</p>
富高委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『子どもの視点や声がどこにあるのだろうか』 「子ども・子育て応援会議」という名称からすると「子ども応援」が、少ないと感じました。</p> <p>親が子どもから離れても心配ないように…の取り組みは、年々充実しているのに親自身、気づいたり感謝できたりしているのでしょうか。子どもたちの声に寄り添う事ができているのでしょうか。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></p> <p>『結婚から育児まで一貫して見守り応援してくれる地域のコミュニティを育てよう。』 子どもたちがいる現場では、核家族・ひとり親家庭が年々多くなっているのを身にしみて感じています。</p> <p>「話を聞いてほしい」という親の声、「ここにいる ボク ワタシに気づいて！」という子どもたちの声を大切にしていくことが大きな応援のひとつと実感しています。</p>

委員名	ご意見等
土居委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『可愛がられしっかり抱きしめる子育て』 ワークライフバランスの確立を願う。特別な事情のない限り、0歳児保育は、ご家庭でできるような環境づくりが必要です。 働き方改革を推進し、長時間保育の解消は必ず将来の子育てや子どもの人格形成に良い方向へとつながってまいります。 アメリカの教育学者ドロシー・ロー・ノルトは「可愛がられ抱きしめられた子どもは、世界中の愛情を感じとることを覚える」といいます。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></p> <p>『子どもは、社会の宝』 愛情深く育てられた人は他人や社会に対して愛情深く接することができます。 結婚・妊娠・出産・育児を社会で支えることは、自分自身も社会に支えられていることです。Give&Giveの精神は愛から生まれます。</p>
仲嶺委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『相談できる環境』 子育て中の方が自分の状況を気軽に話たり相談できる人的環境があることが望ましい。そのことが仕事への責任や意欲の向上につながると思われる。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></p> <p>『学生結婚』 妊娠出産による休学からの復学を支援し、免許資格取得による就職を可能にする。</p>

委員名	ご意見等
中村委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『ワークシェアリング』</p> <p>子育て中に発生する困り事として、「予定外のことが突然発生する」という要素があると思います。子どもの体調不良やケガ、トラブルで連絡が入り、すぐに対応しなくてはいけないという時ほど仕事に支障を期す場面はありません。そんな時でも、他の方が残っている仕事をスムーズに引き継げるよう、日頃からワークシェアのシステムを取り入れることが出来ていると仕事もしやすくなるのではないかと思います。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」</u></p> <p>『思春期の子どもと接する大人のスキルアップ』</p> <p>今の子ども達を見ていて「昔とかなり違うなあ…」と思うのは、身の周りにある情報の量がとても多いということです。テレビ・ネット・SNSという簡単なツールから色々な言葉を知り、動画を見ることも出来てしまいます。でも、それらの情報は間違っただけのもの、解説が必要な事も多く、大人が手を差し伸べる事が必須の様に思います。でも、思春期の子どもへの興味関心に対して“恥ずかしいから…正しい知識が無いから…”と、なんとなく見て見ぬふりをしている大人が多い様に思います。大人がまず正しい知識を身につけ、子どもと向き合う気持ちを持つことが大切なのではないかと思います。</p>
正本委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『保育者の担い手確保対策』</p> <p>認定こども園・幼稚園・保育所にとって、保育者が現場で仕事がしやすい環境は大切です。近年、保育者の法定研修会が大変増えてきました。新人・中堅者研修や免許の更新講習、各団体の研修などがあります。</p> <p>また、H29年度より施設型給付では”キャリアパス研修”が始まります。多様なニーズに対応するため、研修がとても大切と心得ていますが、待機児童の対応等で、保育者不足の中、研修に参加させることが困難な状況があります。</p> <p>当会でも研修会に力を入れており、各々の団体でも研修会の取り組みが進んでいますが、できれば、幼・保・認定こども園を問わず、大分県内の全ての保育関係者が研修できる、研修システムを大分県、教育委員会、幼稚園・保育所・認定こども園団体とで、構築できればと考えます。</p> <p>研修会を取りまとめる、”乳幼児教育保育センター”機能の設立を切に望みます。</p>

委員名	ご意見等
松田委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『要保護児童だった子どもの場合』 保護者のいない児童が永遠に持つ課題は「拠り所」がないこと。18歳で独立は困難続きです。仕事のしやすい環境にするには“社会に出てこそ必要な親の存在に変わるアフターケア”の充実が望まれます。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」</u></p> <p>一般的に祖父母のサポートにより出産意欲が高まるとされている現実を思うと、社会に「祖父母のような組織」があったなら、不幸の連鎖は防げるように思います。少子高齢化社会をうまく活用できる手段を考えたいものです。</p>
三上委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『イクメン』 「イクメン」という言葉がなじみのあるものになってきましたが、実際には母親が満足するほどの育児参画をしている父親はまだまだ少ないと思います。 自分（の夫）だけがイクメンじゃないような気になっている人も多いのでは？ 毎日お風呂に入れたりオムツを替える事だけがイクメンではなく、妻の気持ちに寄り添う事が一番のサポート、イクメンの定義を見直す時期に来ているのかなと思います。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」</u></p> <p>『つわり期のサポート』 急激な体調の変化に、本人もついて行けず戸惑ったり、周囲もおなかが目立たないこともあって、本人の意思表示がないとサポートしづらい。 つわり期について啓発したり、サポート制度が整うと良いと思います。</p>

委員名	ご意見等
矢野委員	<p>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</p> <p>『病児保育、保育士に対しての発達障害に特化した研修』</p> <p>児童養護施設の職員として、子育て支援に関わりながら、私自身も一児の親として就労しております。子どもが2歳になるまでは病気で休むことも多く、施設にはご迷惑をおかけしてきました。その際に、家族のサポートを受けつつ交代で休みをとるのですが、私の住む自治体では病後時保育の制度しかなく、病児保育の受け入れがあればこんなに罪悪感を感じなくて済んだのに…と思うこともしばしばありました。</p> <p>現在は、息子も丈夫になり、お休みすることも随分減りました。保育士さん方の日々の関わり、トイレトレーニングの進め方から、野菜嫌いの子へ「食べてみて、こりこりしておもしろいよ」といった声のかけ方など、こちらが教えて頂くことも多く、私は保育士さんというのは“子育て”と同時に“親育て”をされる専門家であると感じています。</p> <p>また、市町村の健診など行きますと、経済的にも厳しく、養育能力の低い親御さんが、ご自宅でお子さんを抱えているケースに遭遇することもよくあります。そのたびに、“この子が保育園に行けていたら、それだけで見守りもできるし、保障もできるのになぁ”と感じます。たいていは保育園へつなげて頂くことが出来るのですが、少し年齢が上がると、発達障害が疑われるから、療育を受けさせてあげたい、でも、療育機関が一杯で訓練が受けられない、という課題にぶつかります。療育機関は医療が関与するところですから、簡単に増やせるものでもありません。そうすると、福祉の現場でそういったケースに適切に対応できる保育士の養成研修も視野に入れていただきたいな、と思う次第です。学校教育の分野では障がい者差別撤廃法施行以降、合理的配慮というところを重視し、とくに小中学校の先生方の意識が変わってきたな、と感じます。保育園、認定子ども園に関しては、私立には特に独自の養育方針を持ってらっしゃるところも多く、それぞれ親御さんのニーズに合わせて選択できるといいな、と感じるのですが、如何せん、どこの保育園に入れるかは自治体のキャパ次第というところが、福祉という点から外れているのが残念だな、と感じるところです。</p> <p>県北地区におきましても認可保育所、認定子ども園は増加傾向にありまして、ありがたいなと感じています。近年の保育士の待遇改善、奨学金等が充実してきていることに、子どもを預ける親として、また、有能な保育士を雇用したい施設側として感謝しています。</p> <p>現在、児童養護施設の平均勤続年数は7年とされています。私は産休・育休を取得して継続していますが、未だに保育士さんたちは、結婚と同時に退職することがほとんどです。施設によっては直接処遇でも産休を取得される方もいますが、まだ一般的とは言い難い状況です。子どもたちにとって大好きな職員さん達と過ごすためには、出来るだけ長く職員に勤めてもらえればよいのですが、宿直</p>

委員名	ご意見等
	<p>は一人週に1回までという労働基準法による縛りは、小規模化が進む児童養護ではネックとなっています。子ども達のためにも、職員さんのためにも、柔軟性のある制度利用が急務だと感じます。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」</u></p> <p>『家族をまるごと受け止める機関、届きにくいところにいかにして情報を届けるか』</p> <p>資料を読ませて頂きながら、このような色々な取り組みをされているのに、「どうしてうちの子たちには届かないんだろう」と考えておりました。</p> <p>児童福祉に関わっておりますと、愛着に課題を抱えたお子さんたちなので、成長するに従ってどうしても性というところと切り離せなくなります。必要とされたくて、安心して、異性を求めていき、性教育で習ったはずなのに妊娠し、させてしまい、産んで、養育できれば良いのですが、難しい場合にはまた施設にご厄介になる、いわゆる世代間連鎖は一部のケースで確実にあります。私たちは、産んでしまったあとのうまく行かない家族まるごとを抱え、支援できるような方法はないだろうか、子どもだけを、親だけを連携と言いながら別々の機関がサポートするのではなく、実家のように受け止めてくれる、そんなお手伝いをしてくれる包括的な支援機関ができないだろうか、と感じています。平成29年度から予算化された産前産後ホームモデル事業などはその選択肢となるのではないかと思います。是非、産前産後母子ホームの開設につながることを期待しています。</p> <p>また、近年の子どもたちの中には「マンガが読めない」という子どもが結構いて、宣伝媒体についても新しいものを探す必要があるのかもしれない。そんな子たちでも、携帯は持っていて、TwitterやLINEのタイムラインから目新しい情報を探しています。そんな、従来の正当派教育的なアプローチの届きにくい子どもに“バズる”アプローチ法を検討していただけると助かります。“湯～園地”など温泉についてはこと話題性のある広告を展開していらっしゃる大分県なので、きっと名案をだしていただけるものと期待しています。</p>

委員名	ご意見等
幸野委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『児童育成クラブの開校時間』 保育園の開園時間のほとんどは7時。しかし夏休み等の長期休校時の児童育成クラブは8時開校のため、共働き夫婦にとっては出勤時間と重なる家庭が多く不便な思いをしている。 例えば開校に間に合うように父母は会社に遅刻しなければならない。もしくは間に合うように早めに家を出て子どもを育成の玄関まで送らなければならない。この場合、子どもは開校時間まで一人で待たなければならない。 特に春休み。3月に保育園を卒業したばかりの子どもが開校するまで一人で待つことになる。入学式を迎える前なので子どもと親双方が不安に感じ、さらに子どもの安全も保障できない。長期休校中は育成の開校時間をもう少し早く出来ないだろうか。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」</u></p> <p>『出産後の夫婦関係』 子どもが生まれて家族となる過程において、夫婦としてのありかたも変わってくる。現在は男女が共に働き家事育児を担う時代。しかし男性と女性では仕事と家庭の両立に対する考えに相違があることが多い。お互いの気持ちがすれ違い関係が壊れ、実際に離婚する夫婦も身近にいた。 結婚するまでの過程「婚活」も重要だが、「結婚」「出産」した後の夫婦間のパートナーシップもまた重要となる。夫婦感のかかわり方（お互いの家事と仕事の両立のヒント、夫婦間での気遣いの仕方など）の講習や啓発も必要であると感じる。</p>
吉岩委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『急変時の子どもの対応』 子どもの急変時に仕事を休みやすい、休みにくい職場があると思う。特に病院や福祉施設といったシフト仕事は交代も含め対応が難しい（仕事の性質上しょうがないか…） また、病児保育についても、拡充を期待するところである</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」</u></p> <p>『子育て世代包括支援センター』 現在、杵築市と臼杵市にはあるそうですが、他市町村の状況はいかがですか？</p>